



烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

監視活動は重要!!

烏山地域オウム真理教対策住民協議会

会長 古馬 一行

明けましておめでとうございます。
 昨年は地下鉄サリン事件から30年、
 烏山地域においては、オウム信者が
 転入してきて25年という事で、新
 聞・テレビに取り上げられた1年で
 した。この25年間、町会・自治会や
 小中学校PTAの皆さまにも監視活
 動をお願いして、月に一回程度の詰
 所当番を実施してきました。特に、
 小さな町会ではいつも同じ方が詰所
 当番を担っている所もありました。
 皆さま本当にありがとうございます。
 なぜそれまでして監視活動が続け
 るのか。烏山地域のように警察の詰
 所があつて、公安調査庁の詰所があ
 る所は何処にもありません。かつて
 25年前にはオウム真理教の本部があ
 り140人前後の信者が烏山にはいたの
 です。監視の厳しさからか、アレフ
 は分裂して半分は足立区に行きまし

た。60人程いた「ひかりの輪」も今
 では5名程度です。5名程度ならも
 ういいのではないかと、思うかもしれ
 ませんが、そうではありません。
 現在、オウム真理教は団体規制法
 における觀察処分によって活動を監
 視・規制されています。私たち住民
 協議会は、この地域から新しい信者
 が生まれないようにと監視活動を続
 けています。成城警察署も公安調査
 庁も厳しい予算を使って監視活動を
 続けていただいています。私たちが
 監視活動を止めてしまえば、それぞ
 れ手を引いていくことでしょう。
 団体規制法の觀察処分は3年ごと
 に更新をします。更新には地域の人
 たちの強い反対の意志として、署名
 を集めて法務省に要請行動をします。
 それを公安審査委員会が判断します。
 署名活動もコロナ禍から様変わりし
 て、街頭署名ではなく、町会長や諸
 団体の代表に署名をいただいております。
 ます。烏山のオウム信者が6人とは
 いえ、觀察処分が無くなれば「ひか
 りの輪」も、今までの活動を大きく
 変えて、勧誘活動を活発にし、烏山

に新しいオウム真理教が誕生するこ
 とでしょう。

私はいつも北海道を思うのです。

7年ほど前に札幌の白石地区にオウ
 ムの施設が出来ました。「アレフ」

の国内最大規模の拠点です。そこに

視察に行った時、施設の駐輪場に普
 通に自転車であつて入っていく学生風

の人や、小さな子どもの手を引いて
 施設に入っていく若いお母さんの姿

を目の当たりにして、オウム真理教
 に何の疑念も示さない行政と何もし

ない住民では、このような形になっ
 ていくものなのだと実感しました。

ただ、今では住民協議会を立ち上げ
 行政と共に活動が続けています。

オウム真理教に関わった人たちは
 誰も幸せにはならなかった。信者本

人も、そしてその家族もです。烏山
 からそんな人たちを出さないように

警鐘を鳴らし続ける事が住民協議会
 の仕事だと考えています。

オウム真理教との闘いは大変です
 が、それでも続けてまいります。や

める訳にはいかないのです。

これから皆さんと一緒に闘って
 いきますので、ご支援、ご協力をお

願い申し上げます。

《今後の活動予定》

3月23日 協議会ニュース216号発行
 5月9日 第52回抗議デモ・学習会

法務大臣と公安調査庁長官に要請

令和7年12月9日、
 オウム真理教対策関
 係市区町連絡会（会
 長・近藤やよい足立
 区長）の16自治体と、
 世田谷区、足立区、
 金沢市、甲賀市の各
 住民対策協議会、オ
 ユム真理教対策国会
 議員連盟の議員や区
 議会議員は、法務省
 と公安調査庁を訪れ、
 觀察処分の期間撤廃
 など7項目の法整備
 の要請書を、福山守
 法務大臣政務官と田
 野尻猛公安調査庁長
 官に手渡しました。
 参加した住民協議
 会や自治体からは、
 麻原の遺骨がアレフ
 に渡った場合の懸念
 や、住民が気づかな
 い不動産取得で施設
 の建設が進んでしま
 う心配、さらには現
 在の麻原の妻・子ど
 もたちがアレフに及
 ぼす影響、来年度に
 迫る觀察処分の期間
 更新の必要性などを
 訴えました。



▶ (右) 法務大臣政務官へ要請書を手交
 (左) 公安調査庁長官との意見交換会